

全日本建設交運一般労働組合



全国酸素部会新聞



発行 建交労 全国酸素部会機関紙部
大阪府堺市西区石津西町1 2番

TEL 072-241-6660

メール ctgsansobukai@ybb.ne.jp

HP <http://sansobukai.web.fc2.com>

大田貨物運送 第6回裁判

7月20日13時30分から大阪地裁堺支部304号法廷で大陽液送分会大田貨物運送の大陽液送(株)に対する偽装請負の是正を求める第6回裁判が行われました。

今回も争点整理の為、尋問は行われず、公判後に裁判官と原告と双方の弁護士だけで話し合いが行われました。約40分協議の後、報告集会で堺法律事務所の村田弁護士から「協議の中で会社側弁護士が同じ内容で反論を主張して裁判官から時間を切られるなど会社側の焦りを露呈している、こちら側も偽装請負である事を更に主張して時間切れになったので、次回8月に再度協議した中で次の裁判の日程を決める、引き続きご支援をよろしくお願ひします。」と報告がありました。

最後に原告の長谷川氏から「毎回たくさんの方のご支援ありがとうございます。次回もよろしくお願ひします。」とお願ひして終了しました。

参加は原告含め、関西合同支部6名、テーエス支部1名、ダンプ支部1名、此花支部1名、堺労連2名、その他2名の13名の参加となりました。次回の日程決まりましたらご連絡しますのでよろしくお願ひします。

参加されたみなさんお疲れ様でした。

太陽液送分会 米田順一



青年部に初参加してきました

2021年7月4日 大阪労連の青年部に参加してきました。

今回初めて会議に参加させていただきました。会議の内容としては経過報告、活動方針、役員補充、各単組の発言でした。建交労からの発言を寿運送の長谷川さんがおこないました。活動報告として、定期大会・オルグ行動・初の完全zoom交流会開催・5月6日から6月5日までの1ヶ月間最低賃金生活体験・オリジナルエコバック作成等がありました。この経過報告の中の1ヶ月間「最低賃金生活体験」が青年部らしい発想で斬新だと思います。最低賃金を引き上げるため、まずは自ら体験すると言う試みはとても大切だと感じました。今後の自分の活動において当事者の心境を理解するうえで生かして行こうと思います。

また今回、青年部常任委員となりました。今後も何かのお役に立てるように精進しますので、よろしくお願ひいたします。

青年部 穀谷 澄男



トラック部会学習会

トラック部会の学習会が7月4日(日) 10時から大阪国労会館で行われました。

大阪府本部から副委員長の鷹巣氏が講師で挨拶され学習会が始まり、機関会議の確立・団体交渉権の確立・財政の確立・学習活動の確立の大切さを学びました。

職場に持ち帰り、活動に活用していき多くの仲間を増やして要求を実現したいと思います。

今回は新型コロナウイルスの影響で緊急事態宣言下での開催となりましたが会場も満席の30名参加でした。

寿運送分会 宗正芳



2021年 平和行進

7月3日(土)に関西合同支部から、寿の松本さん、大陽液送から私、東堀が参加しました。浜寺公園～堺市役所まで平和行進が行われました。

コロナ禍での開催だったので、60～70名に人数を減らしての行進になりました。梅雨時期でもあり雨天の心配もありましたが、なんとか雨が降ることなく1日を終わりました。

普段は歩く事があまりないので不安でしたが、沿道の人から手を振って頂いたり声援をいただいて最後まで歩く事ができました。1日お疲れ様でした。

最終の広島まで頑張りましょう。

大陽液送分会 東堀俊



全て福島に押し付けるのか!?

東日本大震災から10年以上が経過し、復興が進み以前とほぼ同じ生活を送れるようになりましたが大震災により事故を起こした東京電力福島第一原子力発電所の廃炉作業に伴い増え続ける汚染水問題が大きな課題となっています。汚染水の処分方法を政府は検討していましたが、当初から風評被害対策をどうするか等と海洋放水ありきの方向性を示し、先日IAEA(国際原子力機関)も風評対策に協力を表明し汚染水の処分方法は国の定める基準値以下に希釈しての海洋放水が現実的であると政府は発表しました。

放射線や放射性物質は元々自然界にも存在していて、世界各国の原子力発電所からも放射性物質を含む水を希釈して海洋放水している、国の定める基準値以下に希釈して放水をするので安全であるような説明を政府はしています。しかし問題は汚染水に含まれる放射性物質が桁違いに多い事です。日頃社会問題にあまり意見しない妻が海洋放水のニュースを見て「血圧の高い人が、味噌汁がしょっぱいからとお湯で薄めて全部飲み干したら意味がないのと同じじゃないの?」とポツリと言いました。自然界に放射線や放射性物質が存在しているのは解りますが、今回海洋放水しようとしている放射性物質は原発事故に伴い発生した人工的な桁外れの放射性物質質量でありそれを排水することは自然界のバランスを崩し海洋汚染につながるのではないかと思います。



大震災以前の福島県沖で水揚げされる魚介類は「常磐もの」と高い評価される豊かな漁場でしたが、大震災以降は風評被害にさらされ、試験操業を繰り返し魚介類に含まれる放射性物質を検査し安全であることを証明する為にしてきた努力が全て水の泡となってしまうかもしれません。

また、東日本大震災以降原子力発電所の稼働を40年までとする法律が施行されましたが、一定基準を満たし検査に合格すれば1回のみ稼働を20年延長出来る法律改定があり政府は既存の原子力発電所を使い続けようとしています。世界的に「脱炭素」が叫ばれる中、安心・安全・クリーンなエネルギーと唱えられてきた原子力発電ですが10年前の原発事故を経験し将来のエネルギー政策を我々は今真剣に考える時期であると思います。

幸栄運輸支部 相澤 稔